

## カラマツで

# 「木のささやきが聴こえる街づくり」

(社)北見工業技術センター運営協会 伊藤 廣



### 「木のささやきが聴こえる街づくり」

「木のささやきが聴こえる街づくり」は北見市が林野庁から補助をうけて展開した事業で、「ウッドコミュニケーションタウン整備事業」の一環として実施されたものです。

この整備事業は森林資源を有効に活用しながら、「地域が一体となって木材の需要の拡大を図り、都市環境の中に木材を取り入れ、住民に潤いのある生活の場を提供すること」を目的として進められたものです。林野庁では全国で15の都市を指定していますが、北海道では北見市がモデル地区に選ばれ昭和62年度からスタートしました。

北見市は北海道で4番目の、146.27haの公園面積を持っており、みどりの豊かな市民生活の形成に積極的な行政を進めております。北見市としては昭和63年から平成9年の間、「木のささやきが聴こえる街づくり」事業としても予算を計上して、林野庁のウッドコミュニケーションタウン整備事業に参加しました。

(社)北見工業技術センター運営協会は北見市からこの「木のささやきが聴こえる街づくり」のための商品開発を委託され、協会と受注家具製造業者で「商品開発委員会」を組織して、この「都市公園づくり」の事業の一端を担うことになり、11年間にわたって商品開発事業をおこなうこととなりました。

商品開発活動の内容は、<sup>あずまや</sup>四阿、パーゴラ等の屋外用木材製品を企画設計し、製作し、公園に設置する全過程を含み、これを11年にわたって続けました。

### 企画設計

「木のささやきが聴こえる街づくり」事業を展開するのにあたって、設計コンセプトを確認しておく必要があります。

ウッディエイジ 1999年4月号

コンセプトの基礎はウッドコミュニケーションタウン整備事業の基本理念に整合させるのが当然ですが、それは、

- 1) 「地場の森林資源を有効活用する」
- 2) 「住民に潤いのある生活の場を提供する」という2項目です。さらにこれに加えて、
- 3) 「環境との調和を図った木製品開発」という開発目標が加えられました。

デザイン開発には3次元コンピュータグラフィックシステムが活用されました。

### 製作

<sup>あずまや</sup>四阿、パーゴラなどの製作に利用した材料は木材と金属です。

木材としては、耐久性に富むとされている、北見地方産のカラマツを選びました。カラマツ製材は人工乾燥の前処理過程に脱脂処理を加え、これによって内部応力の除去をおこない、含水率は13%に仕上げました。乾燥された製材はプレーナーで切削加工をしてラミナとし、屋外暴露に耐えるように、レゾルシノール樹脂接着剤を用いて集成材に仕上げました。

部材への加工は工場内でおこない、促進耐候試験をおこなって選ばれた木材保護着色剤を塗布処理しました。

### 作品

11年間にわたって、開発設計、製作をおこなった作品は全て北見市内の都市公園に実証的に設置して、市民の自由な利用に供しました。以下、各作品を写真で紹介いたします。

① 石北大通り公園の四阿<sup>あずまや</sup>

昭和62年度作品、大通り公園の名にふさわしくするために、オオワシをモチーフとしたものです。



写真1 石北大通り公園の四阿<sup>あずまや</sup>

② 東陵公園の四阿(1)<sup>あずまや</sup>

昭和63年度作品、スポーツ観戦を考慮して、解放感のある形状にしました。

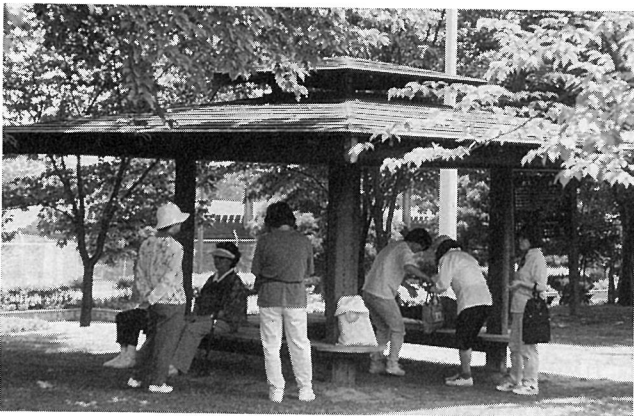


写真2 東陵公園の四阿(1)<sup>あずまや</sup>

③ 常磐公園のパーゴラ

平成元年度作品、モダンなデザインの市民会館の前



写真3 常磐公園のパーゴラ

庭に設置するため、幾何学的なフォルムとしました。

④ 常磐公園の四阿<sup>あずまや</sup>

平成2年度作品、北見ハッカ記念館敷地内に設置するため、史跡の雰囲気をおとさないデザインにしました。

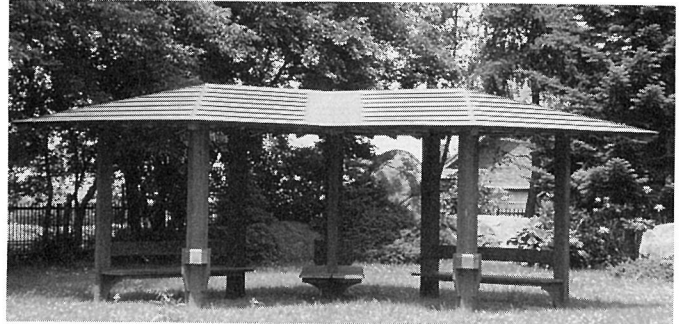


写真4 常磐公園の四阿<sup>あずまや</sup>

⑤ 東陵公園の四阿(2)<sup>あずまや</sup>

平成3年度作品、北網圏北見文化センターの前庭に設置するため、北方のイメージを与える雪の結晶を屋根の形に取り入れました。



写真5 東陵公園の四阿(2)<sup>あずまや</sup>

⑥ 高栄北公園の四阿<sup>あずまや</sup>

平成4年度作品、この公園に既設の木製遊具がモダンなフォルムだったので、シンプルモダンのタッチで設計しました。



写真6 高栄北公園の四阿<sup>あずまや</sup>

⑨ やなぎ公園のパーゴラ兼四阿<sup>あずまや</sup>

平成7年度作品、住宅地の中の小公園、町並みとの調和を最優先としました。



写真9 やなぎ公園のパーゴラ兼四阿<sup>あずまや</sup>

⑦ つつじ公園のパーゴラ兼四阿<sup>あずまや</sup>

平成5年度作品、周辺に建物が少ない公園だったので、自由な発想でデザインすることができました。



写真7 つつじ公園のパーゴラ兼四阿<sup>あずまや</sup>

⑩ 北光社開拓記念碑建立地公園の四阿<sup>あずまや</sup>

平成8年度作品、神社と記念碑に隣接する場所なので、伝統様式タッチを屋根の一部に取り入れ、色彩も落ち着いたのある雰囲気を保つように配慮しました。

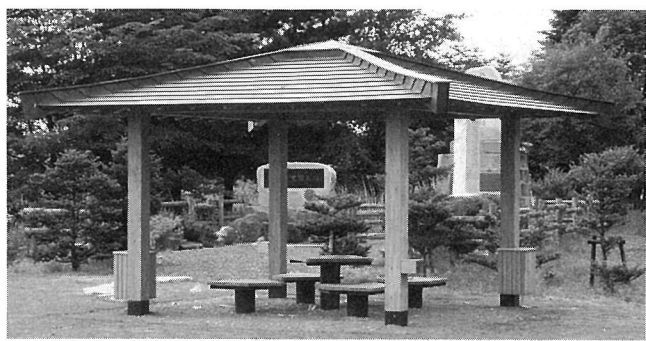


写真10 北光社開拓記念碑建立地公園の四阿<sup>あずまや</sup>

⑧ 東陵公園の四阿(3)<sup>あずまや</sup>

平成6年度作品、公園にパークゴルフコースがあり、その利用者が休憩しやすいようにしました。林の中の建物なので、みどりの雰囲気をこわさないように配慮しました。



写真8 東陵公園の四阿(3)<sup>あずまや</sup>



写真11 小公園のテーブルベンチ

① 小公園のテーブルベンチ

平成9年度作品、パーゴラに咲く藤の花をさまざまな角度から楽しむために、ベンチの平面形状はY字型にしました。

おわりに

いづれの作品も、現在それぞれの公園で、市民に大変親しまれ、よく利用されているので、私どもとしては、人々に「潤いのある場」を提供できたものと、喜ばしく感じています。

今回、私どもが取り組んだ、「カラマツの特性を生かした新商品開発」事業が、これを機会に地場産木材

の需要拡大につながっていくことを強く希望しています。

作品の製作、加工にあたった地元家具製造業者グループの方々は、この事業を通じて、屋外用木材製品の開発、生産技術のノウハウをかずかず獲得され、新規事業への発展の条件整備に大きな力を得たことと思います。

デザイン開発にあたっては、3次元コンピュータグラフィックス（CG）を頻繁に駆使しましたが、自然や周辺景観との調和が不可欠であり、不特定多数の人々が、立体的かつ多様に利用する公園施設の設計には極めて有能な「武器」であることが分かりました。

（原稿受付：1998年7月29日）

**WOODY** クラフト

CLOCK

コサイン（旭川市）

樹 種：メープル、ウォールナット

サイズ（高さ）：19cm, 17cm, 12cm

価 格：9,450円

直線と円、メープルとウォールナット、  
バランスの妙。

